怪異学セミナー　怪異学の地平

周王朝と祭祀儀礼—献捷（けんしょう）儀礼を中心に見る—

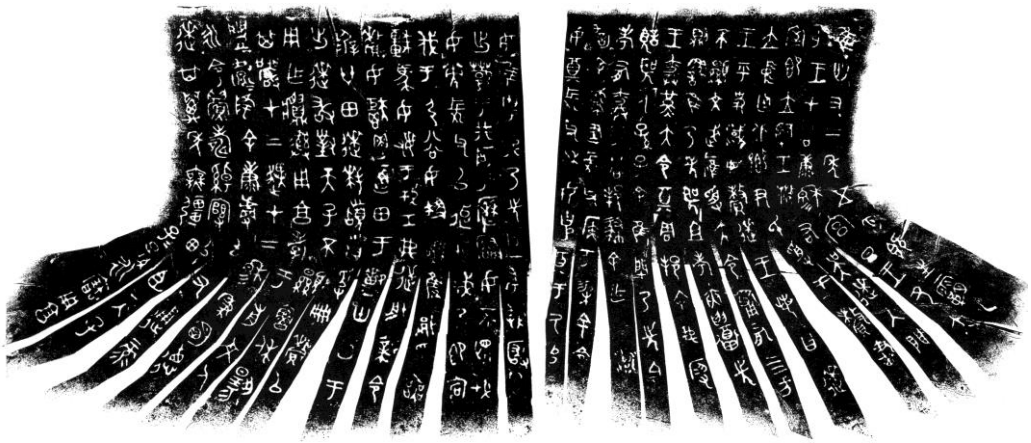
佐藤　信弥
（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所　客員研究員）

はじめに

○怪異との関係：祭祀……現世の人間と天上の祖霊・神霊とのコミュニケーション。
○「国の大事は祀と戎とに在り」（『春秋左氏伝』成公 13 年）……軍事儀礼には両方の要素。
○献捷とは：戦いの後、勝利と俘虜や敵首などの戦果を報告し、献上すること。献馘（けんかく）・献俘（けんぷ）・献功などとも呼ぶ。
○金文とは：青銅器に鋳込まれた銘文。自らの功績などを記し、宗廟や墓葬に捧げられた。

四十二年逨鼎　全体像

四十二年逨鼎　銘文拡大



四十二年逨鼎　銘文拓本（それぞれ『文物』2003－6）

○時代区分：

●西周（前 11 世紀後半？～前 771 年）……ここでは更に前半期（初代武王～5 代穆王）と後半期（6 代共王～12 代幽王）に分ける。

●東周（前 770 年～前 221 年）……前 5 世紀後半を境に春秋と戦国に分ける。

１．西周前半期の献捷儀礼

（１）献捷儀礼の式次第

○西周前半期の金文小盂鼎（集成 2839）を例に式次第を確認。
……鬼方との戦いの後の周廟での献捷儀礼の過程を記録。

［A］隹れ八月既望、辰は甲申に在り。昧爽、三左三右多君、入りて服酒す。明に、王、周廟に格る。□、□□賓延す。邦賓其の旅服を𨻰き、東嚮す。盂、多旂を以い、鬼方を佩びて、□□□□□、□門に入る。告げて曰く、「王、盂に［命じて］、□□を以いて鬼方を伐たしむるに、□□馘□、［酋］二人を［執らえ］、馘四千八百□十二馘を獲し、人萬三千八十一人を俘し、馬□□匹を俘し、車卅両を俘し、牛三百五十五牛、羊卅八羊を俘す」と。盂或た□曰く、「□□□□乎（呼）びて我が征を蔑せしむ。執酋一人、俘馘二百卅又七馘、俘人□□人、俘馬百四匹、車両□□を俘す」と。王□曰く、「□」。盂、拜して稽首し、酋を［以いて］進み、大廷に即く。王、栄に命じ□□、□□□酋、厥の故を遾わしむ。□、趄伯□□鬼𦣞、鬼𦣞、虘に新□を以て商に従う。咸わる。酋を□に折す。□□□□、盂に命じて、人馘を以て門に入り、西旅に献じ、<u>□□入りて周［廟］に燎す。</u>

○甲申の日の明け方に、盂が馘（敵首）や俘虜、馬・戦車・牛・羊などの戦利品を王に報告する。

○鬼方の酋（長）に対する訊問の後、盂が俘馘を西旅（周廟の一室）に献じ、燎祭が行われる。

［B］□□□□□□□□三門に入り、位に中廷に即き、北嚮す。盂告ぐ。𠭯［伯］位に即く。𠭯［伯告ぐ。］□□□于明伯、𢍰伯・□伯告ぐ。咸わる。盂、［諸］侯・侯田□□□□を以いて、盂、延して告ぐ。咸わる。賓、位に即く。賓に賛す。王、呼びて賛せしむ。盂于以□□□、賓を進め、□□。

○盂と𠭯伯・明伯・𢍰伯（盂の部将？）が周廟に対して報告を行い、酒宴が行われる。

［C］大采、三□入りて服酒す。王、廟に格り、祝、延す、□□□□□。邦賓祼せず。□□、牲を用いて周王・［武］王・成王に禘す。□□□将。王、祼す。祼して遂に［王］の邦賓に祼す。王、呼びて□せしめ、盂に命じて、殷を以て入らしむ。殷を搬するに品を以てす。

○大采の時刻（午前８時頃）に周王（文王）・武王・成王の霊に犠牲を捧げ、禘祭が行われる。

［D］雩若に翌日乙酉、三事大夫、入りて服酒す。王、廟に格り、賛す。王の邦賓延す。王命じて盂に□□□□・弓一・矢百・画韔一・貝冑一・金干一・胾戈二・矢鋈八を賞せしむ。……

○翌乙酉の日に酒宴が行われ、盂に賞賜が行われる。

○盂が王に対して戦果の報告を行い、ついで周の祖霊に対して燎祭・禘祭のような祭祀が行われ、そして盂らが廟告を行い、これらの祭祀や儀礼の合間に酒宴が行われ、最後に盂に対する賞賜が行われるという流れとなる。
○献捷儀礼は現世の主君に対する戦果の報告・献上と、祖霊に対する祭祀の二つの要素に分けられる。

（２）献捷儀礼の中の祭祀

燎（甲骨文）

燎（甲骨文）

燎（金文）

𥂴（甲骨文）

𥂴（金文）

（『新甲骨文編』『殷周金文集成』より）

○戦争の際の祭祀の背景……戦勝は祖霊の庇護によるもの。

𢦏簋（集成 4322）
　隹れ六月初吉乙酉、堂師に在り、戎、𢦏を伐つ。𢦏、有司・師氏を率いて奔追して戎を𢦏林に禦ぎ、戎胡を搏つ。朕が文母競敏啓行にして、休にして厥の心を宕げ、永く厥の身に襲き、厥の敵に克たしむ。

○祖霊の庇護を得るため、庇護に感謝するために祭祀の施行が必要となる。
○献捷儀礼の中の燎祭……西周前半期の他の金文や文献にも見える。

『逸周書』世俘解

維れ四月既旁生霸、越に六日庚戌、武王、朝に至りて周廟に燎す。武王、降りるに車自りし、乃ち史佚をして書を天号に繇ましむ。武王、乃ち紂の悪を共にせし臣百人を廃し、右厥の甲小子を伐ちて大師を鼎し、厥の四十夫家君を伐ちて帥を鼎し、司徒・司馬初めて厥れ郊に号す。乃ち南門に夾して俘を用い、皆な佩衣を施め、馘に先んじて入る。武王、祀に在り、大師、商王紂の首を白旂に、妻の二首を赤旂に縣くるを負い、乃ち以て馘に先んじ、入りて周廟に燎す。

郭伯𠭯簋（集成 4169）

隹れ王、逨魚を伐ち、徃でて潮黒を伐ち、至る。宗周に燎す。郭伯𠭯に貝十朋を賜う。

○『逸周書』世俘解：周による克殷の後に、殷との戦いで獲得された俘馘や、紂王とその二人の妻妾の首に代表される敵首を犠牲として周廟において燎祭が行われている。

○郭伯𠭯簋：献捷儀礼の式次第が「燎」の一字に集約されている。

→宗周への帰還後に行われた燎祭が献捷儀礼のシンボルとして扱われている。

保員簋（新収 1442）

隹れ王、既に燎し、厥れ東夷を伐つ。十又一月に在り。

○保員簋：征伐の前に燎祭が行われている……祖霊に対して戦勝を祈願。

○燎とは：

●交錯させた木柴を燃やす形。燔柴を示す。……火による祭祀。

●殷代甲骨文にも見える：

・自然神や殷王の祖霊に対して穀物の実り・雨天を祈る祭儀の中で牛や羊を犠牲に捧げる際に行われる。

・田猟・巡察の前後に豚や羊を犠牲に捧げて行われる。

……古代の田猟・巡察は戦争と不可分の関係にある。→周が軍事儀礼に転用。

塱方鼎（集成 2739）

隹れ周公、于に東夷・豊伯・薄姑を征伐し、咸く翦す。公帰りて周廟に𥃝す。戊辰、飲至し、飲す。公、塱に貝百朋を賞す。

○塱方鼎：周公の東征を記録……征伐後に周廟で𥃝祭を行う。

○𥃝とは：

●鳥を手に持って神前に捧げる形。「獲」と読まれる。

●殷代甲骨文では、狩猟や戦争で得た動物を殷王の祖霊に捧げる行為とされている。

→やはり周が軍事儀礼として転用。

２．西周後半期の献捷儀礼

（１）貢納の儀礼として

師同鼎（集成 2779）

　𢍰畀其井（意不明）、師同従い、折首執訊あり。車馬五乗・大車廿・羊百を俘し、挈きて用て王に造め、拕に養う。戎金□卅・戎鼎廿・鋪五十・鍼廿を俘す。……

虢季子白盤（集成 10173）

　……桓桓たる子白、馘を王に献ず。王孔だ子白の義を嘉す。王、周廟の宣榭に格り、爰に饗す。王曰く、「白父、孔だ顕にして光有り」と。王、乗馬を賜う。「是を用て王を佐けよ」と。賜うに弓・彤矢・旗央を用てす。賜うに鉞を用てす。「用て蛮方を政せよ」と。……

不其簋（集成 4328）

　唯れ九月初吉戊申、伯氏曰く、「不其・馭方、玁狁西𠂤を広伐す。王、我に命じて西に羞追せしむ。余来帰して擒を献ず。

敔簋（集成 4323）

　①隹れ王の十又一月、王、成周の大廟に格る。②<u>武公入りて敔を右け、</u>擒を告げしむ。「馘百、訊卌」と。王、敔の歴を蔑し、⑤尹氏をして授けしめ、敔に圭瓚・□の貝五十朋を釐う。田を敔に五十田、早に五十田を賜う。

多友鼎（集成 2835）

　多友廼ち俘・馘・訊を公に献ず。武公廼ち王に献ず。廼ち武公に曰いて曰く、「汝既に京師を静めたり。汝に釐するに、汝に土田を賜う」と。①丁酉、武公、献宮に在り。②<u>廼ち尚父に命じて多友を召して、廼ち献宮に徙らしむ。</u>公親ら多友に曰いて曰く、「余、汝を肇使するに、休にして逆せず、成事有りて擒多し。汝京師を静めたり。⑤汝に圭瓚一・湯鐘一肆・鑄鎛百勺を賜う」と。

○西周後半期の献捷儀礼：臣下から主君に対する戦果の献上・報告と賞賜にのみ言及し、燎祭のような祭祀については全く触れられない。

　……多友鼎：多友→武公→王への献捷と、王→武公→多友への賞賜。

○松井嘉徳……献捷儀礼は臣下が王の征命に服事して戦果を献じ、その見返りとして賞賜を受けるという一種の貢納の儀礼であると指摘。

　→西周後半期の献捷儀礼は、周王と臣下との間の貢納の儀礼としての性質のみがクローズアップされている。

○燎祭などの祭祀（周王の祖霊への戦果の報告・献上）が献捷儀礼のシンボルとして機能しなくなった。

（２）廷礼の形式の導入

○敔簋・多友鼎と晋侯蘇鐘・四十二年逨鼎では、献捷及びそれに伴う賞賜の儀礼が廷礼の形式に沿って行なわれている。

○廷礼：頌鼎／簋／壺に例示されるように、主として冊命儀礼（官職任命の儀礼）に見られ

る儀礼の形式。

頌鼎／簋／壺（集成 2827～9／4332～9／9731～2）

①隹れ三年五月既死霸甲戌、王、周の康昭宮に在り。旦に、王、大室に格り、位に即く。②宰引、頌を右けて門に入り、中廷に立たしむ。③尹氏、王に命書を授く。王、史虢生を呼びて頌に冊命せしむ。④王曰く、「頌、汝に命じて、成周の賈廿家を官司し、新造賈を監司せしむ。用て宮御せよ。⑤汝に玄衣黹純・赤市・朱黄・鑾旂・攸勒を賜う。用て事えよ」と。⑥頌、拝稽首し、命冊を受け、佩びて以て出で、瑾璋を返納す。

①王が儀礼の行われる宮廟の一室に移動する。
②右者（介添え役）が受命者（任命の対象となる人物）を誘導し、所定の位置に着かせる。
③史官が王に命書（任命の次第を記した冊書）を渡し、更に王が別の史官に命書を宣読させ、受命者に誥命を伝えさせる。すなわち冊命の執行。
④王の誥命（ここでは任命の辞）の内容。
⑤受命者への賜与。官職・職事の象徴となる礼服や車馬具などが与えらる。
⑥受命者が王に拝礼を行い、命書を受け取って退出し、その際に玉器を返納する。
※ただし冊命金文の中で①～⑥のすべてが必ず記述されているわけではない。

晋侯蘇鐘（新収 870～885）

●王隹れ返り歸りて成周に在り。公族、師を整う。①宮にあり。六月初吉戊寅、旦に、王、大室に格り、位に即く。②王、膳夫を呼びて曰く、「晉侯蘇を召して門に入り、中廷に立たしめよ」と。⑤［王］寁（親）ら駒四匹を賜う。⑥蘇拝し稽首し、駒を受けて以て出で、返り入りて、拝し稽首す。

●①丁亥、旦に、王、邑の伐宮に御す。庚寅、旦に、王大室に格る。②司空揚父入りて晉侯蘇を右け、⑤王親ら晉侯蘇に秬鬯一［卣］・弓矢百・馬四匹を儕う。

四十二年逨鼎（新収 745～746）

①隹れ冊又二年五月既生霸乙卯、王、周の康穆宮に在り。旦に、王、大室に格り、位に即く。②司空散、虞逨を右けて門に入らしめ、中廷に立ちて北嚮す。③尹氏、王に釐書を授け、王、史減を呼びて逨に冊釐せしむ。④王若ず曰く、「……汝執訊獲馘ありて、器・車馬を俘す。汝戎功に敏にして、朕が親命に逆ならず。⑤汝に矩鬯一卣・田を疐に卅田・徲に廿田を釐う」と。⑥逨拝稽首し、冊釐を受けて以て出ず。

○敔簋・多友鼎・晉侯蘇鐘・四十二年逨鼎に廷礼の形式、とりわけ②の介添え役による臣下の誘導が導入されている。
→献捷儀礼の式次第が西周後半期に整備された。
○四十二年逨鼎……①～⑥の儀節を完備しており、書式上は冊命金文とほぼ同じ。
○頌鼎／簋／壺と四十二年逨鼎との対照……「命書」「冊命」「命冊」がそれぞれ「釐書」「冊釐」「冊釐」と置き換えられている。
→「命」字・「賜」字が「釐」字に置き換えられている。

○金文の「釐」字：敔簋の「敔に圭瓚・□の貝五十朋を釐う」、多友鼎の「汝に釐す」のように、戦功に対する賞賜を示す用法が存在。

→四十二年逨鼎での「釐」字への置き換え……冊命儀礼で常用される廷礼を戦功に関わる儀礼に適用したことを示している。

３．献捷儀礼の変化から見えてくるもの

○献捷儀礼の変化：

●前半期：主君に対する戦果の報告・献上と、周王の祖霊に対する報告・献上の２つの要素を備え、燎祭・𤇾祭のような殷代以来の祭祀が儀礼のシンボルとして扱われる。

●後半期:主君に対する戦果の報告･献上のみとなり､貢納の儀礼としての性質が強まる。また冊命儀礼に見られる廷礼の形式が採用されるようになる。

○献捷儀礼の変化にはどのような背景があるのか？

……当時の儀礼の変化が反映。

○西周前半期の儀礼：会同型儀礼

……周王主催による殷見（天子への朝見）や射礼など、下級貴族や官吏から諸侯に至るまで広範な身分層の参加によって成り立つ儀礼。周王の祖霊に対する祭祀もそのひとつ。

士上卣／尊／盉（集成 5421／5999／9454）

隹れ王、大いに宗周に禴し、徃でて葊京に饗するの年、五月に在り、既望辛酉、王、士上眔び史寅に命じて、成周に殷せしむ。百姓に豚を替し、眔び卣・鬯・貝を賞す。

叔矢方鼎（新収 915）

隹れ十又四月、王、酌し、大いに祔し、𢍜りて、成周に在り。𢍜りを咸え、王、呼びて厥の士に殷し、叔矢に齎すに裘衣・車馬・貝卅朋を以てす。

○士上卣／尊／盉：周の各拠点において祭祀を行い、成周での殷見で参加した百姓（臣下一般）に引き出物を与える。

○叔矢方鼎：成周で各種の祭祀を行い、参加した士のひとりである叔矢に賞賜を行う。

○禴・酌・祔・𢍜……燎・𤇾と同様に殷代の祭祀に淵源。

○祖先祭祀：

●祖霊は天上にあって子孫を見守り、祭祀を通じて下界の子孫の求めに応じ、庇護を与えるという信仰を背景とする。

●殷の臣民は王の祖先を自らの祖先と一体視し、王の祭祀の物的・人的支援の義務を負った（林澐の説）。→周も前半期はこうした体制を継承したのではないか。

●周王は祭祀を通じて宗教的権威の高揚をはかり、かつ祭祀儀礼の場での賞賜などを通じて臣下と関係を有することができた

○昭王の南征の失敗→王の権威の失墜や王朝の衰退の始まりにより、会同型儀礼の維持が困難に。

○西周後半期の儀礼：冊命儀礼。

●穆王・共王期より周王による官職任命の儀礼の形式（廷礼の形式）が整備されていく。

●上級貴族が受命者の推薦者・介添え役である右者を務め、王朝の運営に大きな影響を及ぼすようになる。

●周王は官職・職事という形で自らの権益を分与することで、受命者や右者となる貴族たちとの関係を構築し、政治的な権力を保持しようとした。

●「殷らしさ」が消え、「周らしさ」が強まる。……青銅器の器種や紋様などにも反映。
→「鬼神を敬して之を遠ざく」（『論語』雍也）

○献捷儀礼など他の儀礼にも介添え役による誘導など、廷礼の形式が取り入れられていく。

○こうした王朝の祭祀儀礼の変化が献捷儀礼の変化に反映された。

おわりに―受け継がれるもの

○春秋時代の史料にも献捷儀礼が見える。

庚壺（集成 9733）

●執る者霊公の所に献ず。公曰く、「勇なるかな、勇なるかな」と。之に賞するに邑を以てし、衣裘・車馬を嗣がしむ。

●歸りて［霊］公の所に献ず。之に賞するに兵執・車馬を以てす。

●庚、其の兵に捷ちて［車］馬を［執］り、之を荘公の所に献ず。公曰く、「勇なるかな、勇なるかな」と。戒□曰く、「□、余以て汝に□を賜う」と。

○庚壺：斉の霊公・荘公に仕えた庚が参加した複数の戦いでの献捷儀礼を記録するが、やはり祭祀のことは見えない。

『左伝』成公二年

晋侯、鞏朔をして斉の捷を周に献ぜしむ。

『左伝』襄公二十五年

鄭の子産、捷を晉に献ずるに、戎服もて事を将う。

○『左伝』に見える献捷儀礼：諸侯から周王への献捷、諸侯から覇者の晋への献捷など、貢納の儀礼としての性質が強まる。

『左伝』僖公二十八年

丁未、楚俘を王に献ず。駟介百乗・徒兵千。鄭伯、王を傅くるは、平の礼を用うるなり。己酉、王、享醴し、晋侯に宥を命ず。王、尹氏及び王子虎・内史叔興父に命じて晋侯に策命して侯伯と為し、之に大輅の服・戎輅の服・彤弓一・彤矢百・玈弓矢千・秬鬯一卣・虎賁三百人を賜わしめて、曰く、「王、叔父に謂う、『敬みて王命に服して、以て四国を綏んじ、王の慝を糾逖せよ』」と。晋侯三たび辞し、命に従いて、曰く、「重耳敢えて再

拝稽首し、天子の丕顕なる休命を奉揚せん」と。策を受けて以て出で、出入三覲す。

○『左伝』僖公二十八年の儀礼：

●晋の文公が城濮の戦いで楚を破った後の献捷儀礼を記録。

●侯伯への策命：

・尹氏と内史叔興父……史官。

・王子虎……右者。

・「策を受けて以て出で、出入三覲す」……頌鼎／簋／壺の「命冊を受け、佩びて以て出で、瑾璋を返納す」のような式次第の誤伝。

○春秋時代……覇者が周王を奉じるなど周王朝の権威はまだ残存しており、西周の延長という側面が強い。

○戦国時代……西周の伝統が途切れ、新たな時代へ。

『礼記』王制

天子、将に出征せんとするに、上帝に類し、社に宜し、禰に造し、征する所の地に禡す。命を祖に受け、成を学に受く。出征し、罪有るを執らえて反り、学に釈奠し、訊馘を以て告ぐ。

○西周の祭祀儀礼、あるいは周王朝の存在そのものが理念化され、『礼記』『周礼』『儀礼』といった礼書にまとめられる。

……献捷儀礼も理念化された形で後世に受け継がれていく。

○周代の祭祀儀礼の変遷：特に祭祀から怪異的な要素が薄れ、理念化されていく過程。

参考文献

【金文の著録】

○集成：中国社会科学院考古研究所編『殷周金文集成』（中華書局、2007 年修訂増補本。原刊 1984～1994 年）。

○新収：鍾柏生等編『新収殷周青銅器銘文暨器影彙編』（芸文印書館、2006 年）。

【日本語文献】

○佐藤信弥「献捷儀礼の変化」（『西周期における祭祀儀礼の研究』、朋友書店、2014 年。初出 2004 年）。

○白川静『金文通釈』（『白川静著作集別巻』、平凡社、2004 年～2005 年。初出『白鶴美術館誌』、1962～1984 年）。

○松井嘉徳「周の領域とその支配」（『周代国制の研究』、汲古書院、2002 年。初出 1999 年）。

○吉本道雅「西周期後半の周王朝―冊命金文の分析―」（『中国先秦史の研究』、京都大学学術出版会、2005 年。初出 1991 年）。

【中国語文献】
○高智群「献俘礼研究」（上）・（下）（『文史』第 35・36 輯、1992 年）。
○顧頡剛「《逸周書、世俘篇》校注、写定与評論」（『顧頡剛古史論文集』第 2 冊、中華書局、1988 年。初出『文史』第 2 輯、1963 年）。
○林澐「商王的権力」（『商史三題』、中央研究院歴史語言研究所、2018 年）。
○劉釗主編『新甲骨文編（増訂本）』（福建人民出版社、2014 年）
○陝西省考古研究所等「陝西眉県楊家村西周青銅器窖蔵発掘簡報」（『文物』2003 年第 6 期）。
○徐仲舒『甲骨文字典』（四川辞書出版社、1988 年）。
○佐藤信弥「金文中有関軍功的釐字」（『第 29 届中国文字学国際学術研討会論文集』、中国文字学会・国立中央大学中文系、2018 年）。